

恩蔵絢子先生  
招待講演

# 脳科学者の母が、認知症になる

記憶を失うとその人は、“その人”でなくなるのか？

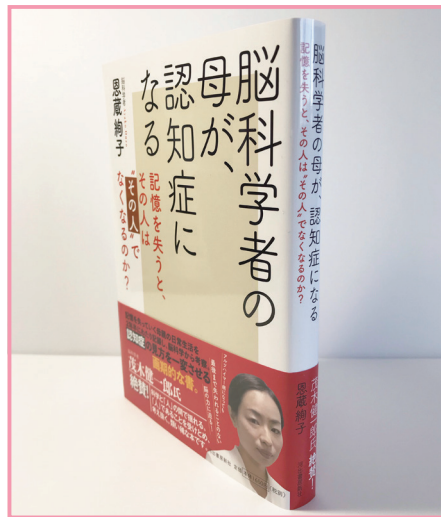
日時＝2019年3月31日(日) 15:15～17:00

場所＝筑波大学文京校舎120教室

主催＝日本老年行動科学会

表題の本（河出書房新社刊）の著者である恩蔵絢子先生をお迎えして、  
脳科学の視点から、上記の内容で認知症についてお話をさせていただきます。

皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。



「母が認知症と診断された」

「日々母にはどんな変化が起きているのか、それは脳の仕組みから考えるとどうということなのか、  
二年半の間、日記として記録し、考えていった」

「客観的事実としては、……認知症は、容赦なく人間の能力を奪っていく病気だといえる」

「『脳にどんな変化が起こっているのか』という視点から母の行為を観察し続けていくと、  
やがて不可解に思える母の言動も、脳の働きからすると自然なことのように思えてくるようになった」

「認知症はその人らしさを失う病ではなかったのだ」

（「はじめに——医者ではなく脳科学者として母を見つめる」より）

恩蔵絢子

Onzo Ayako

脳科学者。東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻課程修了。学術博士。

現在、金城学院大学・早稲田大学・日本女子大学で非常勤講師を務める。

著書に『化粧する脳』（集英社）、訳書に『顔の科学』（PHP研究所）などがある。